

## 第5回みやぎ建設産業振興懇談会 会議要旨

- 日時 令和7年3月10日(月)午後3時から午後4時まで
- 場所 宮城県行政庁舎2階 201会議室
- 資料 資料1: 前回出された主な意見  
資料2: パブリックコメントの結果について  
資料3: 前回からの主な変更点について  
資料4: 第4期みやぎ建設産業振興プラン[最終案]概要版  
資料5: 第4期みやぎ建設産業振興プラン[最終案]本編

### ■出席者名簿(9名出席)

増田 聡	座長	帝京大学経済学部地域経済学科教授 東北大学大学院経済学研究科教授
有働 恵子	委員	東北大学大学院工学研究科教授
西村 博英	委員	一般社団法人宮城県建設業協会専務理事兼事務局長
伊藤 俊一	委員	一般社団法人宮城県建設専門工事業団体連合会会長
船山 雅弘	委員	一般社団法人みやぎ中小建設業協会会長
八木橋 雄介	委員	一般財団法人みやぎ建設総合センター事務局長
佐藤 勝	委員	宮城労働局職業安定部職業対策課長
伊藤 俊夫	委員	仙台市都市整備局技術管理室長
鈴木 光晴	副座長	宮城県土木部副部長(技術担当)

### ■ 主な意見

#### (1) 最終案について

- ・地域の上下水道、橋梁などの老朽化対策、維持管理を担う企業が廃業していく状況。こうした企業を守る制度、支援が必要。埼玉の下水道事故のようなことがあって初めて建設業の重要性に世間が気づく。
- ・省人化が必要だが、ソフト導入、DX人材育成が難しい声あるので、支援拡充が必要。
- ・増収は困難になっている中、利益率を向上させる工夫が必要。利益の見える化で効果が上がった。大きな現場では指揮系統上の問題から無駄が出ている場合もある。
- ・中途採用に注目しているのはとても良い。実際の採用は「ツテ」が多い。建設業を正しく理解してもらえれば、担い手は来てくれる。
- ・企業間での組合の結成やM&Aにより企業存続させることも必要。
- ・市町村における企業への支援が見えてこない。プラン推進上の課題となるだろう。市町村へ地域建設産業への支援の必要性を浸透させることで、プランの実効性を向上させていく必要がある。
- ・行政側も水道事業のように広域で市町村がまとまって対応しなくてはならない状況になってきているのではないか。
- ・「生産性の向上」が最も伸び代があるので、戦略的に施策を実施する必要がある。
- ・他産業も人手不足の中、負けないように魅力を伝えていかなければならない。未来を想像させるものを若い人たちにアピールし、DXにより危険な作業や人に嫌がられる作業が機械化されていっていることを理解してもらうことが重要。
- ・ベテランの技術者の勘所を若手に研修やOJTで伝えるのも重要。
- ・水道事業体が共同発注して衛星を使って漏水を広域的に把握する取り組みを実施している。そういった事例などを「みやぎ建設ふれあいまつり」でPRしていく必要がある。
- ・書類の簡素化は小規模な建設企業ほど必要としている。